

専門ワーキング報告

ワーキング開催概要

令和元年度に開催した専門ワーキング（農地環境ワーキング、地域振興ワーキング、環境学習ワーキング）についてその結果を報告する。

農地環境ワーキング

日時	2019年11月28日（木） 10:00～12:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室
主な議題	・ 農地環境づくりの取り組みの継続・拡大上の課題について



会議の様子

地域振興ワーキング

日時	2019年12月26日（木） 14:00～15:30
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室
主な議題	① 協議会の愛称・シンボルマークの選定について ② 観光振興・広報活動に係る検討内容（案）について



会議の様子

環境学習ワーキング

日時	2019年11月1日（金） 10:00～12:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室
主な議題	① 環境学習施設と連携した環境学習プログラムの検討（案） ② 写真巡回展「大型水鳥と水辺の大自然」の開催（案）



会議の様子

1. 農地環境ワーキングの開催について

(1) 概要

大型水鳥類の生息環境改善に資する農地の確保に向けた方策に関して、圏域の農業部局職員や農業振興の専門家と議論を行った。

(敬称略)

日時	2019年11月28日(木) 10:00~12:00		
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室		
出席者	島根県農業技術センター 栽培研究部長	月森 弘	
	島根大学 教授	松本 慎吾	
	松江市農政課 主事	岡本 悠也	
	雲南市農政課 グループリーダー	落部 大	
	雲南市地域振興課	鶴原 隆	
	鳥取県		
	安来市		
	事務局(出雲河川事務所)		
	(公財)日本生態系協会		
主な議題	・ 農地環境づくりの取り組みの継続・拡大上の課題について		



(2) 議題の設定について

大型水鳥類を指標とした農業振興に関する主な課題

- 大型水鳥類や生態系ネットワークの形成に関する情報の、農業者等の認知不足
- 農業者を主軸とした、大型水鳥類の保全につながる取り組みの実践・継続が困難

- ・ 前回のワーキング(2018.11.18)では、既に環境に配慮した農業を行っている方が主に参加して「大型水鳥類の生息に資する水田環境づくり」をテーマとした視察と、「大型水鳥類の保全につながる農法で生産されたお米(以下(仮称)エコネット米)」の展開の可能性等について、議論を実施。



- ・ 本年度は(仮称)エコネット米の普及・推進の担い手として考えられる、自治体の農業部局を中心に事前に聞き取りを実施。

各自治体からの意見(一部)

- ・ ワーキングで(仮称)エコネット米の話をする前に、地域社会や環境に対する思いや将来展望を共有したい
- ・ これまで農家がやってきた取り組みを評価してもらえる形が良い
- ・ 農地環境の改善と農業者の所得向上を、短期的に両立させることは難しいと考えている
- ・ 既存の制度とは別に、農業者にとってインセンティブとなるような補助金の仕組みもあるとよい



(仮称)エコネット米にこだわらず、農地環境の改善に向けた幅広い課題の解決に関する議論が求められている。



本ワーキングを自治体の農業部局の参加のもと、「農地環境づくりの取り組みの継続・拡大上の課題について」議論を行う場とした。

(3) 主な議事内容

農地環境づくりの取り組みの継続・拡大上の課題について

- 本議題の前に、「斐伊川水系生態系ネットワークの形成と、大型水鳥類の保全上農地が有する役割について」として事務局より以下の情報を紹介した。
 - 生態系ネットワークの形成上、どのような環境の農地が水鳥に望まれ、そのような農地はどのような取り組みによって形成されるのか
 - 他地域における(仮称)エコネット米の条件設定



- 各団体実施されている、既に環境に配慮した取組を行っている農業者への支援、先進的な農業の普及に向けた取組や 除草剤を使わない農業の技術研究、環境に配慮したブランド米等の紹介があった。
- WGの実施体制についても、新たな参加メンバーや、年に1度で会議ではない形での実施、についても議論があった。

◇ワーキングメンバーからの意見等

自治体における農地環境に関する課題やその解決に向けた取組について

- コウノトリが来ている雲南市でも、市全体にコウノトリが浸透しているわけではなく、地域で温度差がある。
市全体で盛り上げていくのか、コウノトリの生息地づくりにつながる取り組みに対しどのようなインセンティブを与えるか、についても、地域で議論していく必要がある。
- 農業の担い手不足が深刻化しており、農地を農地として維持することが第一という状況。環境に優しい農業については、「推奨」が落としどころ。
他方、余力やチャレンジ精神を持つ農業者もいることは間違いないので、そうした方の熱意を具体的なアクションに導くことも重要。
- 江の設置等環境に優しい取り組みを行っている市内の営農組合や、そうした水田でくらす生き物を紹介するサイトを作成予定。
こまめな情報発信の継続が、消費者の気付き、農産物の高付加価値化につながる。
- 現時点で市ができることは、例えば優れた取り組みの紹介や推薦等がある。
松江市では、今年度、無農薬栽培米を生産・販売している下古志ファーム13を、環境に優しい農業の優良事例として、国の表彰制度(※)に推薦した。
- 島根県では、無農薬栽培で一番問題になる水田雑草について、冬期湛水・早期湛水による抑草技術の確立に向けた研究を続けている。一定の成果が得られたことから、現在、普及に向けたマニュアルを作成している。

(仮称)エコネット米の販売等について

- 島根県では、化学農薬や化学肥料を使わない、または減らして栽培した農産物を「エコ認証農産物」として認証する仕組みがある。ただし、これらの農産物の販売は農業者の努力に委ねられており、実情、苦戦している。
- 雲南市にはすでに地域のブランド米として「たたら焔米」がある。特別栽培を基準としており、減農薬、減化学肥料栽培が進められている。
- 売り先の話まで、国土交通省が事務局とし考えるのか。
⇒過去にはJA勉強会等も実施していた。次回以降は、農林水産省等にも参加を呼び掛け、支援制度の紹介・拡充といった情報提供等を実施してもらいたいとは考えている。

その他の意見

- 他の地域ではコウノトリの放鳥・定着をめざし農地の改善を行っているが、すでに来てしまっている状況で、そこまで農法を変えていくといった取り組みはどこまで必要なのか。
⇒すでに良い環境があることを農業者に知ってもらい、その環境を維持するための取り組みを今後も継続してもらう、そのための支援方策を検討し整える、ということが考えられる。
- 大学を農業振興の担い手の一つとしてとらえるなら、学術的調査や、地域への普及・発信が挙げられる。国が生態系ネットワークに関する公募課題を示し、大学がそれに応えるというやり方もある。
- 年に1回の会議では中々先へ進まない。
⇒会議形式ではないかたちでも、情報交換を進めていきたい。

※「多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰」、下古志ファーム13は環境保全型農業直接支払の部門において、松江市初となる優秀賞を受賞。

2. 地域振興ワーキングの開催について

(1) 概要

2019年12月26日(木)に、圏域の自然環境を活用した観光、広報等の地域振興を推進させる方策に関して、圏域の観光振興の担い手等が参加し、議論をおこなった。

日時	2019年12月26日(木) 14:00~15:30	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 1階大会議室	
参加メンバー	エピオネイチャーガイドオフィス 代表	池田 友紀
	道の駅 湯の川 駅長	金築 豊
	(一社)出雲観光協会 事務局長	斉藤 謙一
	神門通り甦りの会 代表	田邊 達也
	中海・宍道湖・大山圏域観光局 事務局	森 秀雄
その他	協議会参加自治体の関係部署 環境省大山隠岐国立公園松江管理官事務所	
	出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	① 協議会の愛称・シンボルマークの選定について ② 観光振興・広報活動に係る検討内容(案)について	



(2) 主な議事内容

1. 協議会の愛称・シンボルマークの選定について

- ・ 愛称等の作成・選定方法について、第6回協議会における意見を踏まえ、会議に先立ち、前年度の地域振興ワーキングメンバーや協議会会長を対象に意見聴取を実施した。
- ・ 愛称・シンボルマークの選定方法の方針案として、以下を事務局から提案し、議論を実施

- ① 圏域に所在するデザイン会社から数社選出する。
- ② デザインの作成は1社を選定し、複数案のデザイン案を制作する。
- ③ 一般投票により、1点を決定する。



愛称・シンボルマークの選定方法の方針案について

- ・ デザイン会社候補の選定を行い、専門のデザイナーに候補の作成を依頼するという方針で検討を進める
- ・ 地域振興ワーキングで検討した内容を第7回協議会にて諮る。

◇議論内容

デザイン会社の選定について

- ・ デザイン会社へ依頼する際の、予算や期限などの条件が分かると良い。著作権や商標登録について、専門家に助言を求めているかどうか。

投票方法について

- ・ 家族を通じた地域住民の認知度向上を期待して、圏域内の児童にアンケートを行ってはどうか。
- ・ 投票方法を検討する際には、投票者のターゲットを圏域内に限るのかどうか決めておく必要があるのではないか。
- ・ 投票結果を踏まえた最終的な決定方法についても、事前に決めておく必要があるのではないか。

コーディネーターについて

- ・ 神門通り甦りの会代表の田邊氏を愛称・シンボルマークの選定に関するコーディネーターとして選任した。

2. 観光振興・広報活動に係る検討内容について

- 地域振興における現状の課題に対応した、観光振興・広報活動に係る検討を行い、取組みの実施状況や進行状況を報告し議論を実施した。
- 観光振興・広報活動に係る検討内容として、以下の取組みを事務局から報告した。
 - ①【報告】【実施予定】PR活動
 - ②【報告】道の駅の活用
 - ③【実施予定】中海周辺におけるインバウンドモデルツアーの実施
 - ④【実施予定】水鳥観察ワンコイン・ツアーの実施
 - ⑤【アイデア】サイクリングによる生態系ネットワーク観光の可能性
 - ⑥【アイデア】アートによる生態系ネットワーク観光の可能性

◇ワーキングメンバー等からの意見等

中海周辺におけるインバウンドモデルツアーの実施について

- 欧米系の方は宿泊と食事をセットにしなが、ゆっくりまわっていくのを好む。将来的に、そのような滞在型のメニューを考えても良いのではないかな。
- 解説板やパンフレット等の多言語化を進める際には、日本語の直訳ではなく、外国の方が理解できるような文脈で制作する必要がある。

水鳥観察ワンコイン・ツアーの実施について

- 最終的には、補助金を使わずに自立していけるようなスタイルが望ましい。
- 出雲空港の最終便を利用する旅行者は、時間を持て余すことも多く、レンタカー会社との連携等、時間を有効活用できる仕掛けづくりを進めていきたい。

サイクリングによる生態系ネットワーク観光の可能性について

- 来年3月に境港市と米子市の日本海側をつなぐ「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース」が開通する。鳥取県と米子市はこれを一つの目玉にしていこう方向。

アートによる生態系ネットワーク観光の可能性について

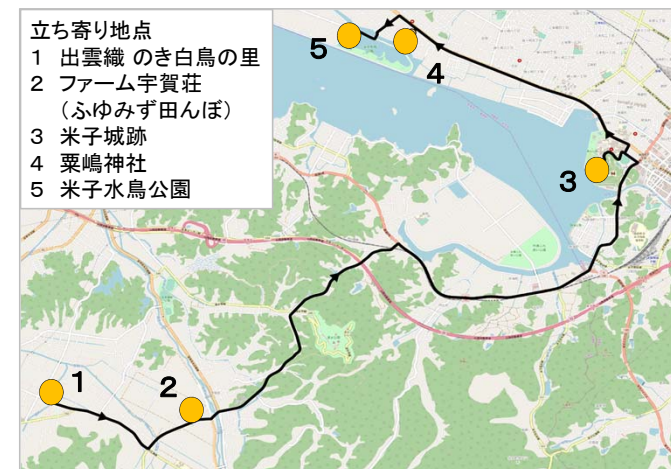
- 出雲キルト美術館で企画展『雪と鳥』を実施している。連携できると良い。
- 米子水鳥公園でマツダケンさんという方の展示会を、今年6月に一週間開催した。若者への知名度が高く、来場者数が通常約16倍の1600人を超えた。普段、水鳥に関心のない人も呼び込んだ前例となり、異なる層へのPRになった。

その他

- ケーブルテレビに番組を作ってもらえるのはどうか。地域住民が意外に知らないという現状があり、取材側に趣旨を理解してもらい、素材があることを伝える。



ワンコイン・ツアー広報カード
(左:表、右:裏)



中海周辺におけるインバウンドモデルツアーのコース(予定)

- 今年度2月に、中海周辺におけるインバウンドモデルツアー、水鳥観察ワンコイン・ツアーを実施する予定。
- 実施済の取組みやアイデアについて、引き続き参加メンバー等を通じて検討していき、来年度の取組みに反映させていく。

(3)生態系ネットワークの取り組みを地域に伝える活動・地域における取り組みの紹介

地域のイベントへの参加・ブース出展

- ・ 地域の人々を対象に、当地に飛来・生息する大型水鳥類の魅力やその重要性を知ってもらうため、地域振興ワーキングが主体となり、普及活動として2つのイベントでのブース出展を行った。
- ・ 大型水鳥の写真や等身大パネルの展示を行ったほか、ハクチョウの折り紙体験、水鳥クイズを実施した。

松江市環境フェスティバル

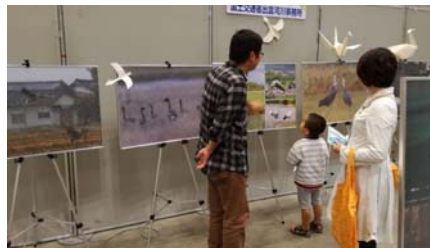
日時:2019年11月4日(月・祝日)

10時00分～15時00分

場所:くにびきメッセ

参加者:大人から子どもまで

幅広い年齢層



大型水鳥の写真パネルを使った説明



水鳥クイズにチャレンジする来場者



スマートフォンによる水鳥クイズ

(日本生態系協会の出題システムを活用)

土木の日

日時:2019年11月16日(土)

9時30分～12時00分

場所:上塩冶スポーツセンター

参加者:主に親子

地域の取り組み・イベントについて

中海や宍道湖の豊かな水辺環境を活用した観光振興の取り組み、自然環境や水鳥をモチーフとした絵画企画展の開催等について、情報提供があった。



島根県、鳥取県主催、中海の自然環境に親しみながらサイクリング、ランニングを楽しむイベント(米子市観光課より)



出雲市キルト美術館冬期企画展「雪と鳥」(一社)出雲観光協会齊藤氏より)



中海・宍道湖・大山圏域市長会主催、水鳥観察施設等をポイントとしたスタンプラリー(左)と、小学生を対象とした自然観察イベント(右)(中海・宍道湖・大山圏域観光局事務局 森氏より)



3. 環境学習ワーキングの開催について

(1) 概要

2019年11月1日(金)に、大型水鳥類を活用した環境学習の推進に関して、圏域の環境学習施設の職員や環境学習を推進する民間団体等、現場で活動されている方々等が参加し、議論を行った。

(敬称略)

日時	2019年11月1日(金) 10:00～12:00	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室	
出席者	NPO法人 国際交流フラワー21 しまね花の郷 理事長	青木 広幸
	出雲市農林水産部農業振興課トキ分散飼育係 出雲市トキ公開施設 課長補佐	梶谷 房生
	(公財)中海水鳥国際交流基金財団米子水鳥公園 ネイチャーセンター 常務理事兼事務局長	神谷 要
	NPO法人 いずも朱鷺21 トキ学習コーナー 理事長	原田 孟
	(公財)しまね自然と環境財団 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課企画幹	星野 由美子
	(公財)ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所 所長	森 茂晃
	キコニアまなびネット 代表 (雲南市立西小学校 元校長)	和田 邦子
	米子市	
	松江市	
	出雲市	
	雲南市	
	事務局(出雲河川事務所)	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	① 環境学習施設と連携した環境学習プログラムの検討(案) ② 写真巡回展「大型水鳥と水辺の大自然」の開催(案)	

(2) 議事

1. 環境学習施設と連携した環境学習プログラムの検討(案)

圏域各地の環境学習施設等有する既存のプログラムの中で、水鳥や生態系ネットワークに関わるものを整理し、プログラム集を作成することを、事務局より提案し、議論を行った。

■プログラム集コンテンツ案

- 各施設の位置図
- 各施設の概要(住所、地図、連絡先、休館日、申込方法 など)
- プログラム内容(対応する単位、対象、時期、所要時間、ねらい、場所、内容 など)

対応する単位	主な対象	所要時間	ねらい	内容

対応する施設	主な対象	所要時間	ねらい	内容

■プログラム集イメージ

- ・メンバーの所属する施設や団体から情報提供してもらい、プログラム集を作成する。
- ・プログラム集(案)を作成し、再度ワーキングメンバーで確認した後、配布する。

◇ワーキングメンバー等からの意見等

- ・ 学校に送付するのは、秋または年内が望ましい。年明けに配布する施設もある。
- ・ 大きな宿泊研修などは、前の年から決まっているが、4月の担任が決まり、その年の一年のプログラムを考えるタイミングでの配布が一番良い。
- ・ 各施設が生態系ネットワークの取り組みのために新たにプログラムを作成するというイメージを考えているのか。
→ 各施設で実施している既存のプログラムの中で、水鳥や生態系ネットワークと関連するものを紹介いただきたい。
- ・ 施設によっては周辺に水辺がなく水鳥のプログラムがないが、コウノトリとその食物資源である水田の生き物調査を題材とすることもできる。鳥だけでなく、環境全体を扱うプログラムの提供もあって良い。
- ・ 「ハクチョウと地球温暖化」など、水鳥に絡めて、自分たちの生活に関わるゴミや水質などのメニューをつなげる工夫をするとよい。学校も受け入れやすい。
- ・ ターゲットは子ども向けとして、方針は先に決めず、今回の施設からプログラムを出し合った上で、今後間口を広げていくのが良いのではないかと。

2. 写真巡回展「大型水鳥と水辺の大自然」の開催(案)

- 施設の来訪者(地域住民等)を対象に、パネルを活用し大型水鳥類や生態系ネットワークの取り組みについて発信を行うことを目的として、公共施設や環境学習施設と連携し、水鳥の写真パネル巡回展示を開催することを、事務局より提案し、議論を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- パネル展の開催を宣伝する広報は行う予定か。
→ 記者発表を予定している。チラシの作成については検討する。
- 一般の人がわかるよう、写真にタイトルや説明がつくと良いのではないかな。
- 追加の説明やタイトルの提示方法は、各施設により見せ方が違ってくると思う。各施設で来館者の関心をうまく引き付ける工夫をしたい。
- より伝わりやすくする工夫として、例えば展示物にちなんだワークシートやクイズ等が用意できるとよい。
- 好きな写真について投票を行い、抽選で記念品をお渡しすることも考えられる。
- まず今年度はできる範囲で開催し、次から盛り込むのがよいのではないかな。
→ タイトルや鳥の解説資料はすぐに作成できる。今後、クイズや記念品の用意などを考え、各施設にもご協力いただければありがたい。
- 大型五種の水鳥の等身大パネルは、写真では分からない「大きさ」が実感できるので効果的である。ぜひ写真パネルと一緒に展示したい。
- 巡回展の終了後も、これらのパネルを利用することは可能か。
→ 写真パネル、等身大パネルともに貸出は可能。活用してほしい。



- 正式な巡回スケジュール案を調整後、チラシの作成、および、プレスリリースを行い、巡回を開始した。
- 出雲市トキ公開施設、および米子水鳥公園で実施済み。1月29日から2月16日まで、央道湖グリーンパークで展示する予定。



写真巡回展の開催を知らせるチラシ



写真巡回展の様子
(左: 出雲市トキ公開施設、右: 米子水鳥公園)

同ワーキングでは、この他、学校教育へのアプローチについても、引き続き参加メンバー等を通じて継続していき、情報の共有を図っていくこととした。